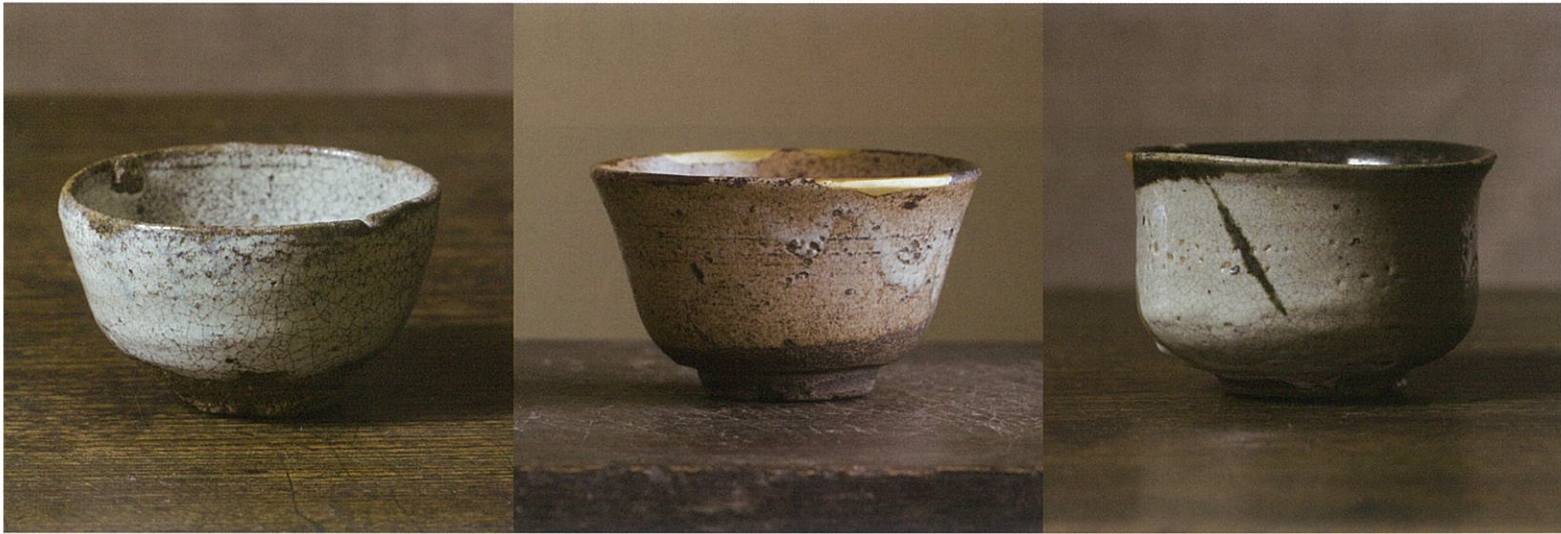


古唐津の ぐい呑展



会期——2016年4月8日(金)~5月8日(日)

会場——唐津市近代図書館 美術ホール

〒847-0816佐賀県唐津市新興町23番地

電話 0955-72-3467

開館時間 10時~18時(入場17時半まで)

会期中の休館日 4月11日(月)/18日(月)/25日(月)

観覧料——一般 500円

唐津市在住75歳以上の人 250円


障がい者手帳を持っている人と同行者1人 無料(手帳を御提示下さい)

高校生以下 無料


問合せ——サガテレビ事業企画部 電話 0952-23-9112(月~金/9時半~17時半)

主催——古唐津のぐい呑展実行委員会(事務局/SAGATV)

共催——西日本新聞社/唐津やきもん祭り実行委員会

協賛—— (株)まいつる百貨店  松浦通運株式会社  松浦漬本舗

 宮島醤油株式会社

 唐津ケーブルテレビジョン

 DHC

「あらかじり」

昨年の「1000の唐津焼展」につづき、今年は「古唐津のぐい呑展」を開催させていたただくこととなりました。古唐津のぐい呑をテーマにした展覧会はおそらく日本初の試みではないでしょうか。

茶道の世界では古くから「一井戸、二樂、三唐津」と言われ、茶陶として珍重されてきた唐津焼ですが、酒器としても沢山の人達から好まれてきました。酒器の愛好家の方たちの間では「備前の徳利に唐津のぐい呑」と言われ、特に斑唐津のぐい呑は高く評価されています。

本展覧会では小林秀雄や白洲正子などが愛用したぐい呑を始め、古唐津の酒器の逸品、約50点をご覧いただきます。それぞれが約400年前に作られたものですが、作られた窯も違えば種類も様々です。小さいながらも、見込み、高台、肌触り、釉薬などぐい呑の見どころはたくさんあります。また400年の時を経て、育まれた古唐津ならではの味わい深い雰囲気も感じていただければと思います。

この展覧会を通じて唐津焼の酒器としての魅力、楽しさをご紹介させていただきます。「唐津焼って、いいよね。」と感じていただければ幸いです。

主催者

古唐津のぐい呑

唐津焼は使われてこそ、より魅力的になる焼き物と言われています。土ものならではの、使えば使うほど色味や風合いが変化するという特性があるからです。「作り手八分、使い手二分」と表現されることもあります。ここには出来上ったものが未完成という事ではなく、使う事によって育てながら、「自分だけの唐津焼」にしていただきたいという作り手の願いが込められています。

今回、展示しているぐい呑は約400年の時を経て、いろいろな人の手に渡り、大切に使い伝えられてきたものばかりです。楽しいお酒、悲しいお酒、様々な場面で使い手と時を共にし、寄り添ってきたぐい呑達。使われてきた、それぞれの人の思いが器の表情として表れています。

いくつもの時代の中で育てられ、変化を重ねてきたぐい呑達の、品格を携えた独特の表情を味わっていただき、お楽しみいただければと思います。



撮影 菅野康晴/工芸青花

唐津焼陶芸家によるギャラリートーク

4月14日(木) 14時 岡本作礼

4月21日(木) 14時 矢野直人

4月28日(木) 14時 梶原靖元

4月30日(土) 14時 中里太郎右衛門

*申込不要。要観覧料

*内容が変更または中止になる場合があります。あらかじめ御了承下さい

会場——唐津市近代図書館 美術ホール
〒847-0816 佐賀県唐津市新興町23番地
電話 0955-72-3467

アクセス——電車……JR唐津駅下車、南口より徒歩1分
バス……バス停「アルピノ前」下車、徒歩5分

